

証券コード 6524

クオリティ企業をめざして

# 2025年12月期第3四半期 決算説明資料

湖北工業はアルミ電解コンデンサ用リード端子と  
海底光通信用部品のリーディングカンパニーです

湖北工業株式会社  
2025年11月6日

# 目次

I. 2025年12月期3Q 業績ハイライト .....	P. 2
II. セグメント別の状況（リード端子）.....	P. 10
III. セグメント別の状況（光部品・デバイス）.....	P. 18
IV. 参考情報 .....	P. 25

# I. 2025年12月期3Q 業績ハイライト

# 2025年12月期(3Q累計)のハイライト

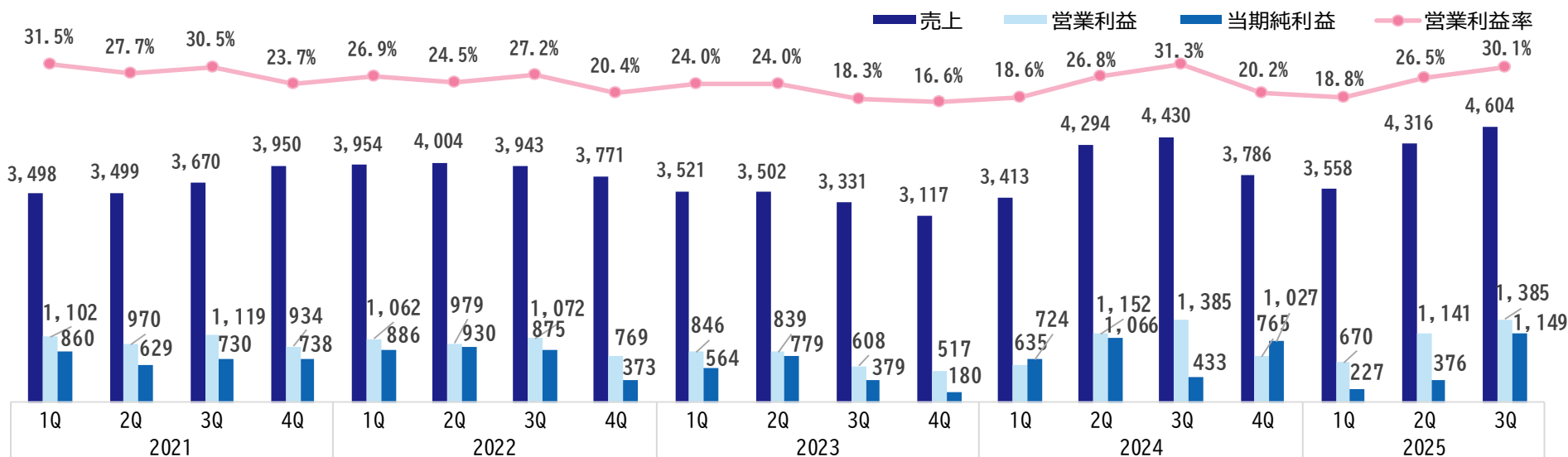
## <業績概要>

- 3Q累計の業績は前年同期比で売上が +2.8% (+342百万円)、営業利益は +0.8% (+23百万円) の増収増益、3Q以降も堅調な状況が続く見込み
- 1Qの売上は低調だったが、主力2事業共に2Q以降改善傾向。リード端子は、市場回復が緩やかな中で収益改善が継続。光部品・デバイス、売上拡大が続いた
- 為替差損等の発生により当期純利益は前年同期比 △21.1% (△469百万円) の減益

## <事業環境>

- 海底ケーブル市場は、1Qに個別要因による一部調整が発生したがその後回復、順調な海底ケーブルのプロジェクト投資を背景に好調な受注が継続
- 情報通信インフラ市場では、生成AI・データセンタ市場が好調、両事業に対してプラスの影響
- 民生機器市場の厳しい状況、自動車関連市場の停滞等により、アルミ電解コンデンサ市場は回復が弱い状況

売上高、営業利益、当期純利益、営業利益率（百万円、%）



# 損益計算書(3Q累計)の概要

本業では増収増益を確保  
為替差損の影響（△413百万円）などにより経常利益・当期純利益は減益

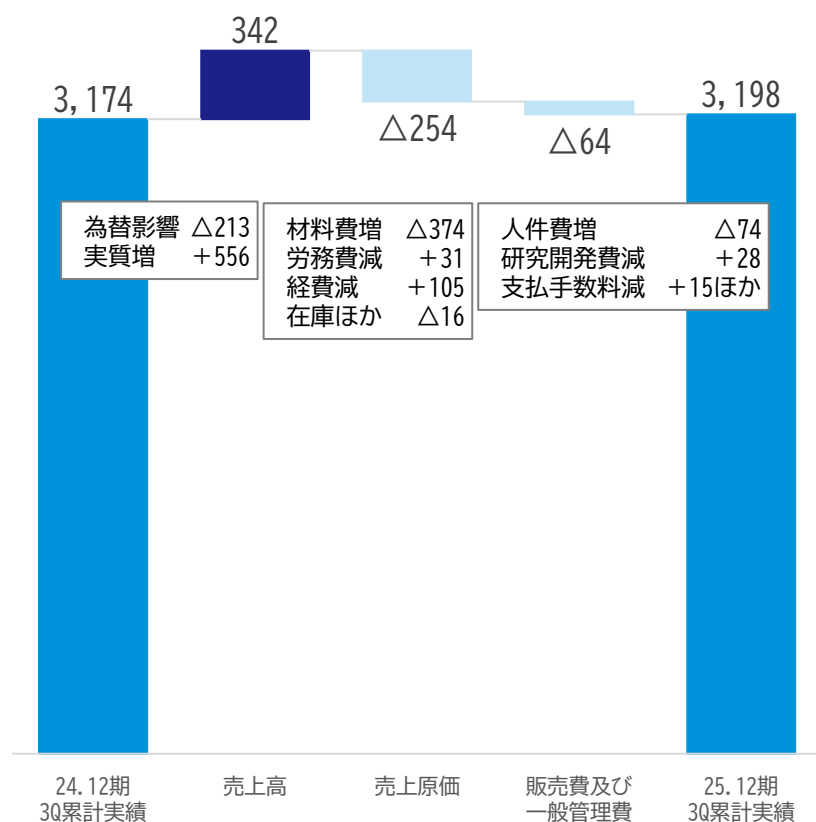
<前年同期比較>					<四半期比較>					(単位：百万円)	
	2024年12期	2025年12期			1Q (1月-3月)	2025年12期					
	3Q累計 (1月-9月)	3Q累計 (1月-9月)	対前年同期 増減	前年同期比		2Q (4月-6月)	3Q (7月-9月)	対前四半期 増減	直前四半期比		
売上高	12,137	12,480	+342	+2.8%	3,558	4,316	4,604	+288	+6.7%		
リード端子事業	6,285	6,359	+74	+1.2%	1,978	2,171	2,209	+38	+1.8%		
光部品・デバイス事業	5,852	6,120	+267	+4.6%	1,580	2,144	2,395	+250	+11.7%		
売上総利益	5,281	5,370	+88	+1.7%	1,398	1,854	2,116	+262	+14.1%		
販売費及び一般管理費	2,107	2,171	+64	+3.1%	728	712	731	+18	+2.6%		
営業利益	3,174	3,198	+23	+0.8%	670	1,141	1,385	+243	+21.4%		
営業利益率	26.2%	25.6%	△0.5pt	—	18.8%	26.5%	30.1%	+3.6pt	—		
リード端子事業	296	555	+259	+87.5%	114	228	212	△15	△6.7%		
光部品・デバイス事業	2,878	2,642	△235	△8.2%	555	913	1,172	+259	+28.4%		
経常利益	3,326	2,827	△499	△15.0%	301	996	1,529	+533	+53.5%		
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,224	1,754	△469	△21.1%	227	376	1,149	+772	+205.1%		
為替レート（期中平均）	151.45円/\$	148.09円/\$			152.56円/\$	144.60円/\$	147.46円/\$				

# 営業利益(3Q累計)の増減要因

## 前年同期比

(単位：百万円)

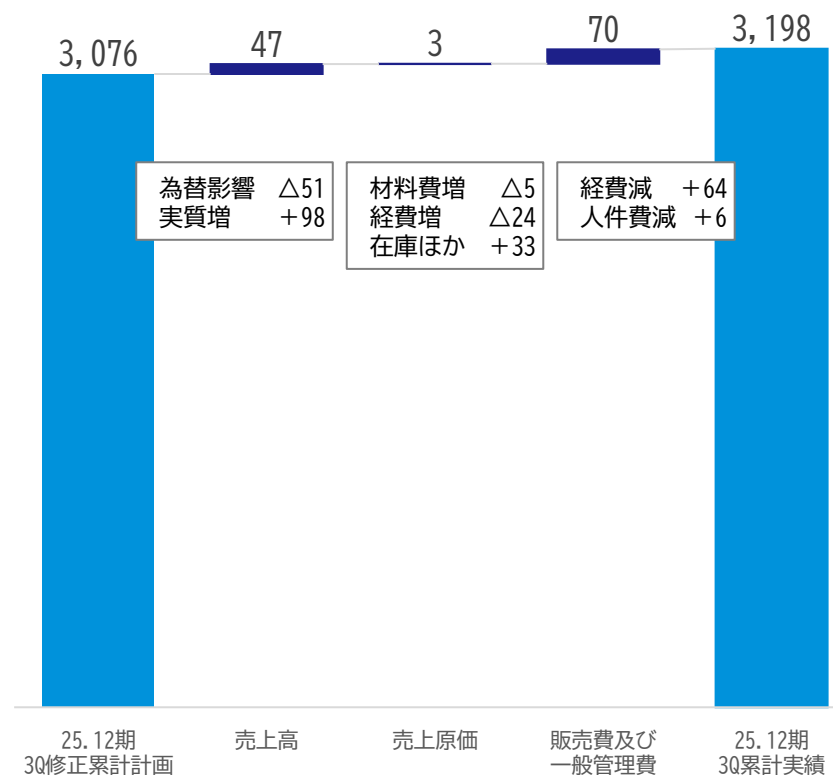
売上の増加がコストアップを吸収し、若干の増益



## 計画比

(単位：百万円)

全体としては、ほぼ計画線



# 貸借対照表(3Q)

(単位：百万円)

貸借対照表	24年12期末	25年12期3Q末	増減額	主な増減内容
流動資産	18,331	15,315	△3,015	現金及び預金 △2,056、受取手形、売掛金及び契約資産 +721、有価証券 △1,400ほか
固定資産	10,353	10,449	+96	投資有価証券 +813、機械装置及び運搬具（純額） △239、リース資産（純額）△205、のれん △291ほか
資産合計	28,684	25,765	△2,919	
流動負債	2,945	1,942	△1,003	未払法人税等 △975、一年内返済予定の長期借入金 △208ほか
固定負債	2,309	2,150	△158	リース債務 △159ほか
負債合計	5,254	4,092	△1,161	
純資産合計	23,430	21,672	△1,757	資本剰余金 △2,261、利益剰余金 +945、為替換算調整勘定 △288、自己株式 △211ほか
負債・純資産合計	28,684	25,765	△2,919	

# 2025年12月期業績の見通し

主力2事業ともに売上は改善傾向。利益面でも改善が続き、過去最高の売上・営業利益を達成の見通し

(単位：百万円)

<為替感応度> 売上高80百万円/円 営業利益30百万円/円	2024年12月期	2025年12月期（計画）			
	実績	当初予想	修正予想（8月）	修正予想の前期実績比	
売上高	15,924	17,919	17,360	+1,436	+9.0%
リード端子事業	8,403	9,298	8,822	+419	+5.0%
光部品・デバイス事業	7,520	8,621	8,537	+1,016	+13.5%
営業利益	3,939	4,586	4,644	+704	+17.9%
営業利益率	24.7%	25.6%	26.8%	+2.0pt	-
リード端子事業	403	746	878	+475	+117.8%
光部品・デバイス事業	3,536	3,839	3,765	+228	+6.5%
経常利益	4,856	4,474	4,216	△640	△13.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,252	3,006	2,538	△714	△22.0%
1株当たり当期純利益（円）	120.50	115.30	97.31		
為替レート（期中平均）	151.69円/\$	150.00円/\$	150.00円/\$		

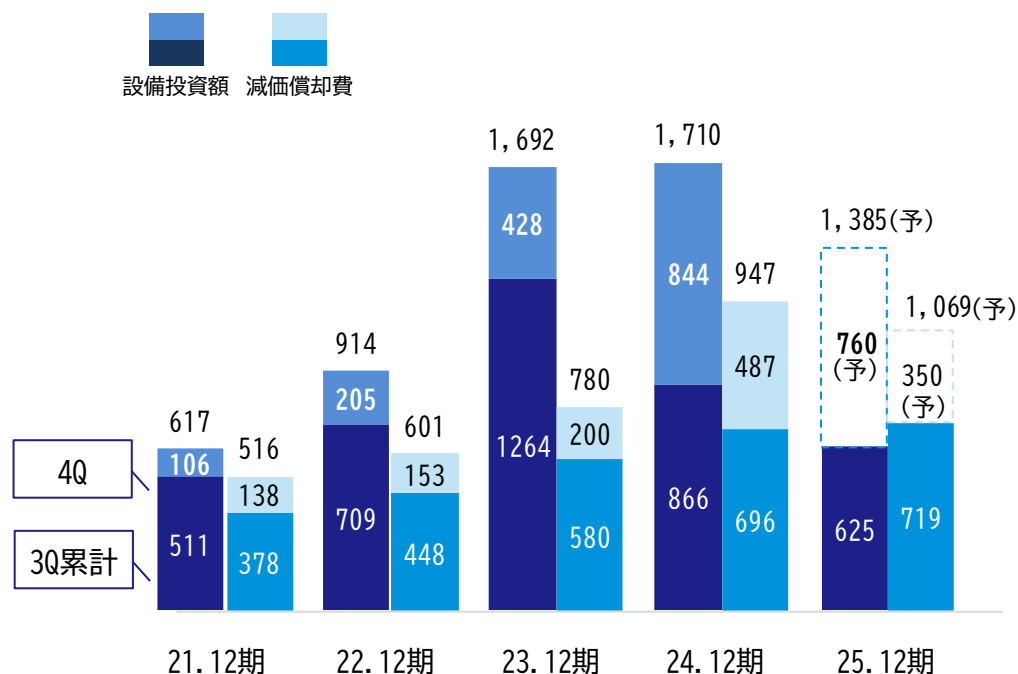
※<為替感応度>は、1米ドルに対して1円の変動が1年間続いた場合の試算値

- ・リード端子事業では、売上の回復が緩やかな状態が続く
- ・光部品・デバイス事業では、海底ケーブル向けの受注が引き続き増加。ファラデー回転子についても生産能力拡大により売上増加が継続

# 設備投資額・減価償却費(3Q累計)

ファラデー回転子ほか新製品・新技術に重点投資

## 設備投資額・減価償却費（百万円）



## 設備投資の主な内容

### 光部品・デバイス事業

- ・ 光デバイス後工程能力増強
- ・ ファラデー回転子能力増強
- ・ スリランカ自動化投資

### リード端子事業

- ・ レーザー溶接量産試作
- ・ 高付加価値製品能力増強

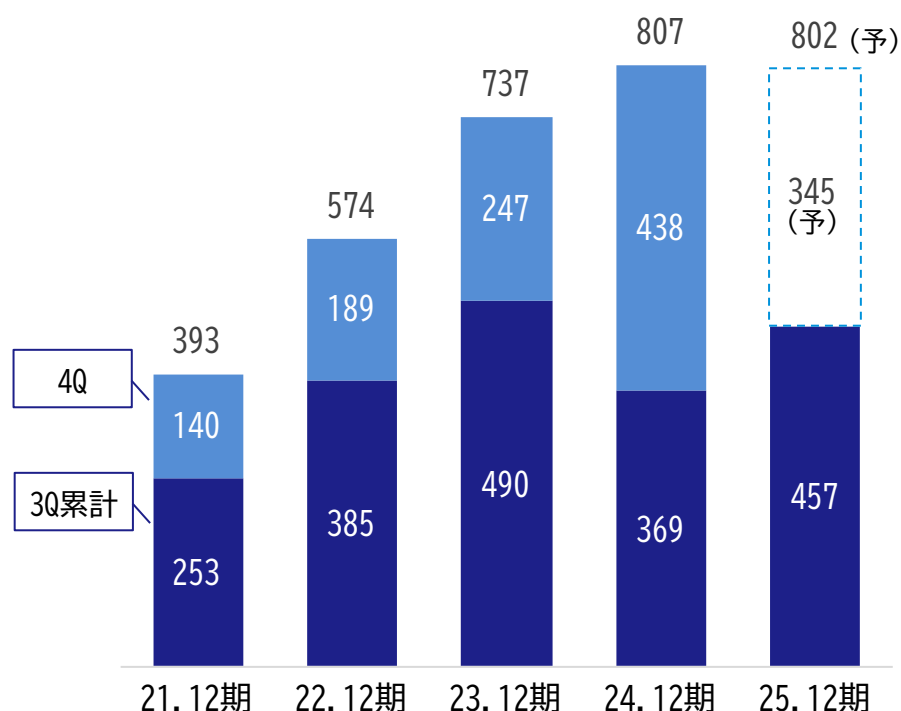
### 共通部門

- ・ 基幹情報システム関連

# 研究開発(3Q累計)

海底ケーブル用デバイスの開発に加えて、衛星通信、次世代光デバイス等将来技術の開発に注力

## 研究開発費（百万円）



## 主な研究開発内容

- 海底ケーブル用光モジュール開発・試作
- 生成AI・データセンタ向け次世代ファラデー回転子開発
- 低軌道衛星通信（LEO）用各種光デバイス開発
- 宇宙空間用ハイパワー光モジュール開発
- 半導体製造装置向けほかSSG®製品及び量産技術開発
- 次世代高信頼・高機能リード端子向けレーザー溶接技術開発

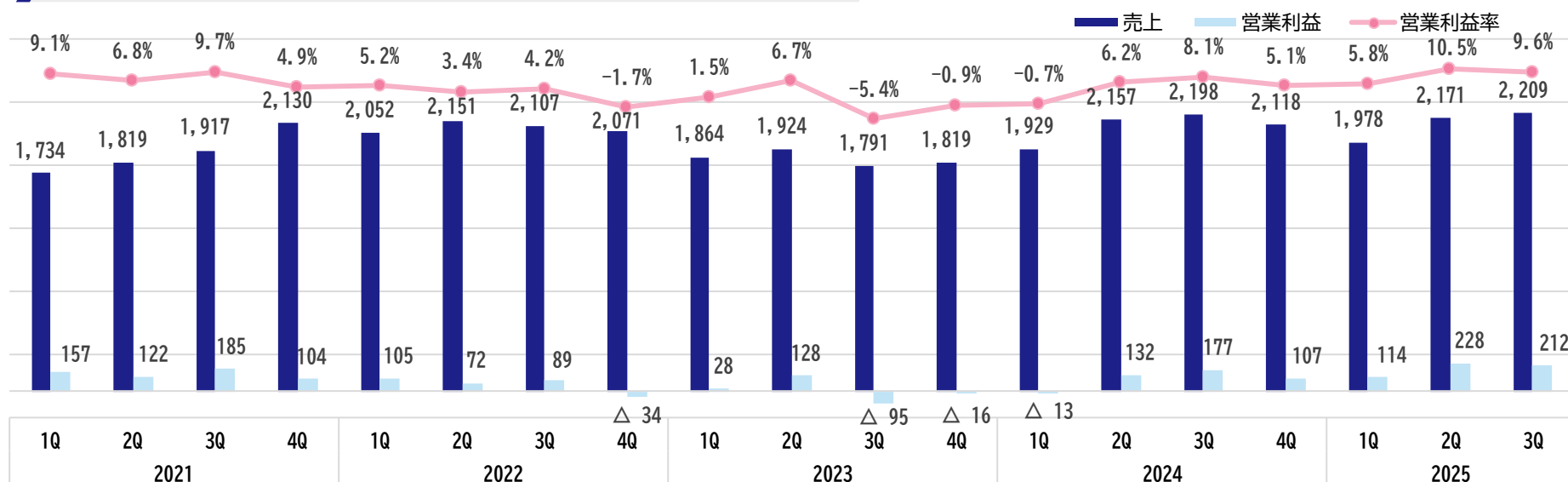
## Ⅱ. セグメント別の状況（リード端子）

## セグメント別業績(3Q累計)

- ・ 昨年後半からの欧州自動車市場の調整が終了し春以降は回復傾向だが、回復力は弱い状況続く
- ・ 一昨年からの生産体制再編及び生産効率改善活動により収益力は改善

	<前年同期比較>				<前四半期比較>					(単位：百万円)	
	2024年12月期 3Q累計 (1月-9月)	2025年12月期 3Q累計 (1月-9月)	対前年同期 増減	前年同期比	1Q (1月-3月)	2Q (4月-6月)	2025年12月期 3Q (7月-9月)	対前四半期 増減	直前四半期比		
売上高	6,285	6,359	+74	+1.2%	1,978	2,171	2,209	+38	+1.8%		
営業利益	296	555	+259	+87.5%	114	228	212	△15	△6.7%		
営業利益率	+4.7%	8.7%	+4.0pt	—	5.8%	10.5%	9.6%	△0.9pt	—		

## 売上高、営業利益、営業利益率（百万円、％）

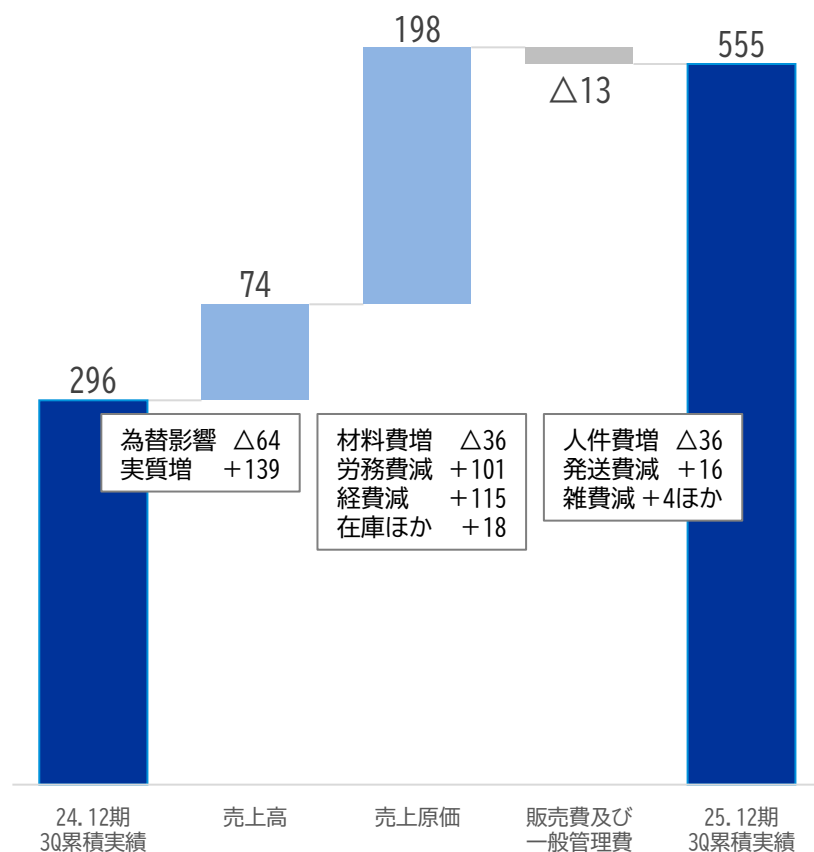


# 営業利益(3Q累計)の増減要因

## 前年同期比

(単位：百万円)

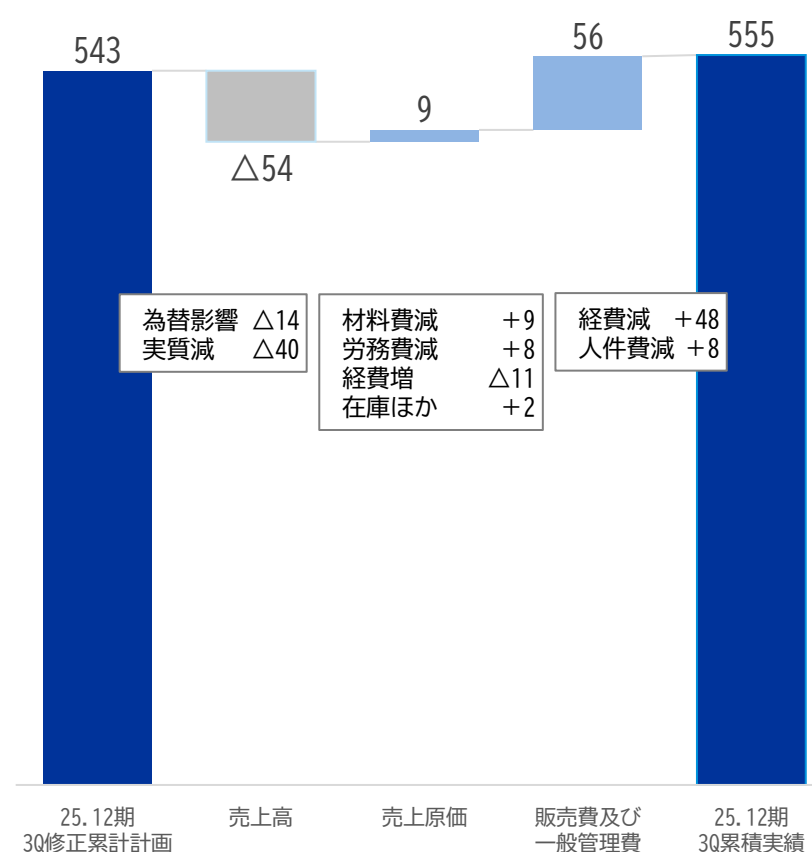
売上の回復は緩やかだが、損益面では改善が進んだ



## 計画比

(単位：百万円)

歩留り向上等により、売上減少を上回る収益改善



# リード端子事業の見通し

売上の回復は緩やかだが、8月時点の見通しに対して概ね計画線で推移  
 利益面では、計画比前倒しのコストダウンを下期も継続、期初計画に対して利益上乘せ

## セグメント業績

(単位：百万円)

	2024年12月期	2025年12月期（通期）			
	実績	当初予想	修正予想（8月）	対前年増減	前年比
売上高	8,403	9,298	8,822	+419	+5.0%
営業利益	403	746	878	+475	+117.8%
営業利益率	4.8%	8.0%	10.0%	+5.2pt	—

## <2025年12月期4Qの見通し>

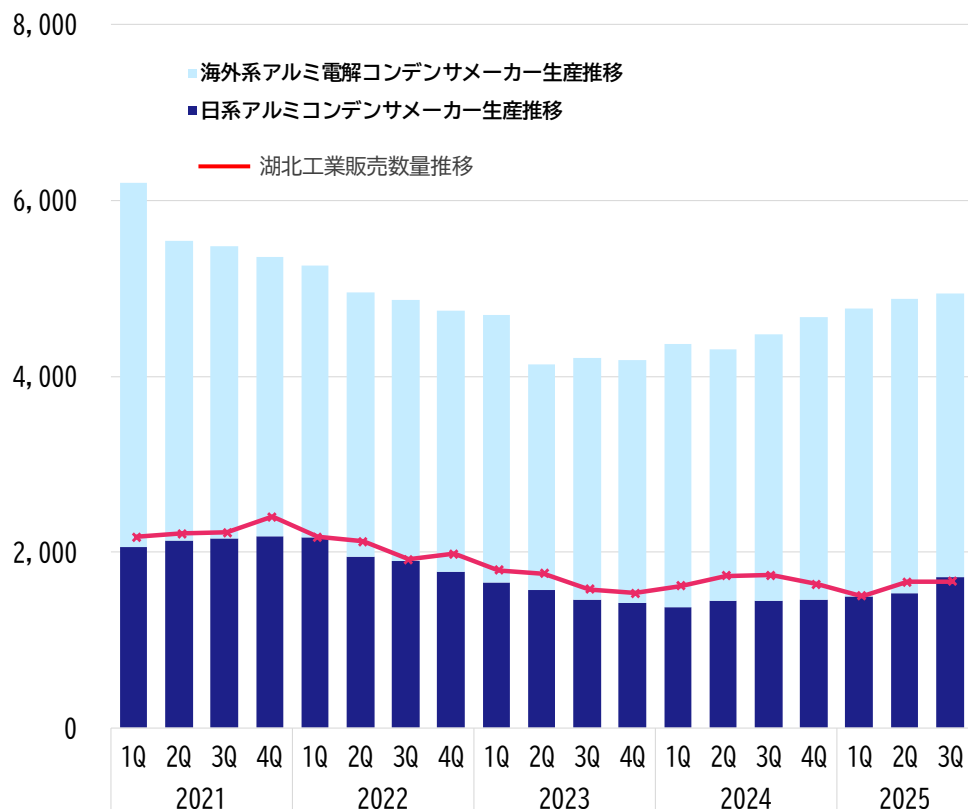
- ・ 生成AI・データセンタ市場向けは好調、高機能アルミ電解コンデンサのラインアップ拡充に合わせて高付加価値製品の採用が進む見通し
- ・ 自動車市場向けは回復傾向だが米国通商政策の影響等により弱い回復が続く
- ・ 生産効率改善などにより収益力は下半期も改善が進んでおり、営業利益率10%の達成を目指す

# 2025年12月期(3Q)の事業環境

アルミ電解コンデンサは、回復傾向が続くが、回復力は弱い状況が続く

## 小型アルミ電解コンデンサのグローバルマーケットと当社の販売数量推移

(百万個)



※リード端子はコンデンサ1個あたり2個仕様の為、コンデンサ数量に換算して表示

※アルミ電解コンデンサ生産数量は各四半期ごとの最終月の実績、リード端子販売数量は四半期における月平均（当社推定）

## 市場動向・営業施策

### <自動車関連市場>

- 2024年後半の調整は一巡、国内市場の回復もあり全体として回復傾向だが、EVの普及停滞、競争激化により伸び悩み
- 自動車市場向けにハイブリッドコンデンサ用リード端子の引き合いがグローバルに増加

### <生成AI・DC市場>

- 日系コンデンサメーカー各社の生成AI・DC向け新製品の開発に対応した高付加価値製品の引き合いが増加
- 漏れ電流特性及び低ESRを重視したリード端子の需要増

### <民生機器市場>

- 中国での景気停滞等により厳しい状況が続く

### <グローバル営業体制強化>

- 本社と海外生産拠点の連携強化、高付加価値リード端子のグローバル市場での顧客サポート、マーケティングを強化

# 当社の状況と収益改善への取組み

## 当社の経営環境

	2025/12期予想（当初コメント）	2025/8月時点の下期見通し	現在の状況と今後の見通し
(1) 生産	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 東莞をさらに増強し収益力を改善（2025年年間生産比率 KECD50%、KECS30%、KEM20%）</li> <li>➢ 引き続き歩留り・可動率改善、切替ロス削減を進める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 東莞工場を引き続き増強、年度末には生産比率50%に引き上げ予定</li> <li>➢ さらなる生産効率とOEE改善を進め、収益力を強化する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 東莞工場を引き続き増強、9月時点の生産比率は40%強、年度末に50%達成の予定</li> <li>➢ 歩留まり改善等、各拠点における収益改善策を継続して実施</li> </ul>
(2) 売上	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 海外自動車市場に向けての顧客サポート、マーケティングを強化</li> <li>➢ バリレスほか、漏れ電流低減・低抵抗に貢献する高機能リード端子の販売を強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 中国等海外での営業体制を強化する</li> <li>➢ バリレスほか、漏れ電流低減・低抵抗に貢献する高機能リード端子の販売に引き続き注力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 日系顧客の海外拠点、アジア系顧客の売上は順調な伸び</li> <li>➢ 海外での営業サポート、技術提案を強化、引き合いが引き続き増加</li> <li>➢ 一部アイテムが一部顧客で調整するも4Qには回復の見通し。新規採用は順調に増加</li> </ul>
(3) 技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ レーザー溶接新技術、量産品試作に向けて開発拠点を本社に移管</li> <li>➢ 漏れ電流低減リード端子の開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 2025年末までにEDLC用リード端子のサンプル出荷目標</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ レーザー溶接対応アイテムの範囲拡大へ取り組み</li> <li>➢ 2025年末に、一部顧客にサンプル出荷を開始する予定</li> </ul>

# リード端子事業におけるROIC指標改善への取組（進捗状況）

改善項目	改善テーマ・KPI	実施内容、成果
売上原価・販管費削減	1. 新商品（付加価値商品） 売上比率向上 2. 歩留り改善、生産性向上	1. 新商品売上比率 15.4%⇒ <b>19.9%</b> 漏れ電流低減・抵抗低減対策品・バリレス品 2. 歩留り改善、生産性向上 (1) 不良率：50%削減（半減） (2) OEE（設備総合効率）：3ポイント向上 (3) 製造原価：4ポイント低減
運転資本回転率向上	キャッシュコンバージョン サイクルの改善	1. 売上債権サイトの短縮 日本：120日後⇒60日後 海外（一部）：90日後⇒60日後 2. 買入債務サイトの延伸 仕入先（一部）：30日後⇒60日後 <div style="border: 2px solid orange; padding: 10px; display: inline-block; margin-top: 10px;"> <b>2025年中 に実施完了 予定</b> </div>
資産回転率向上	棚卸資産の削減	1. 製品在庫・材料在庫の削減 (1) 製品在庫 1.3ヶ月分 ⇒ 1.0ヶ月分 (2) 材料在庫 0.9ヶ月分 ⇒ 0.6ヶ月分

継続的な取組により、2027年の営業利益率目標の上乗せを目指す

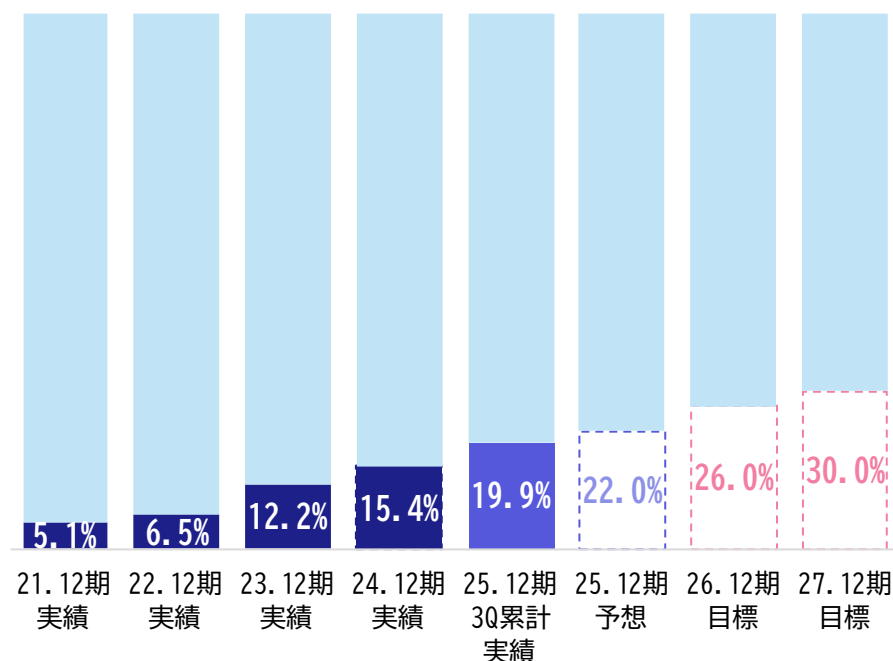
# 市場開拓による事業規模の拡大

一部顧客での在庫調整の影響が発生したが、グローバル市場で高付加価値製品の採用が進む

## 高付加価値製品の売上比率

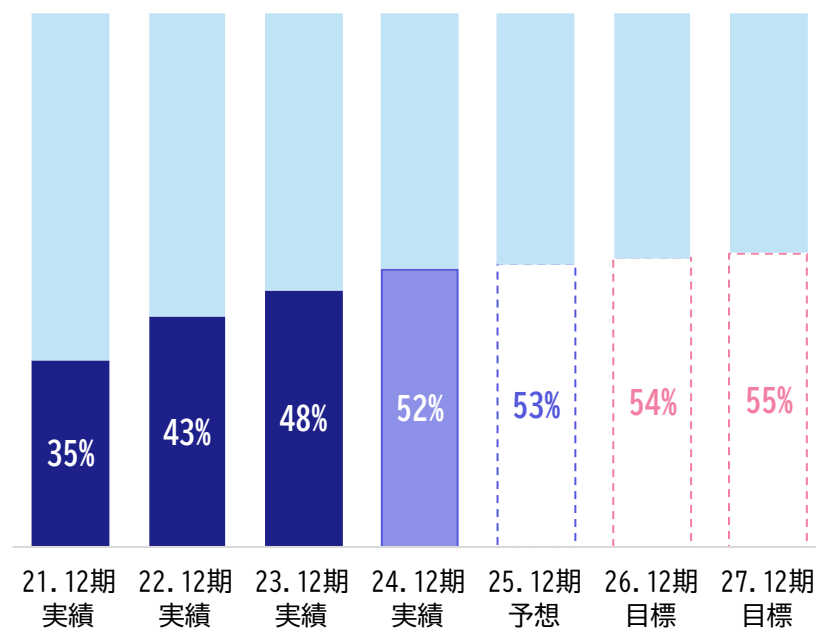


- ・売上比率は緩やかに上昇
- ・バリレス、EDLC向けほか各アイテムの売上増加
- ・高機能コンデンサ向けに漏れ電流対策を強化



## 自動車市場向け売上比率（推定値）

- ・車載市場向けグローバルマーケットシェア95%維持
- ・海外車載市場での拡販を進める



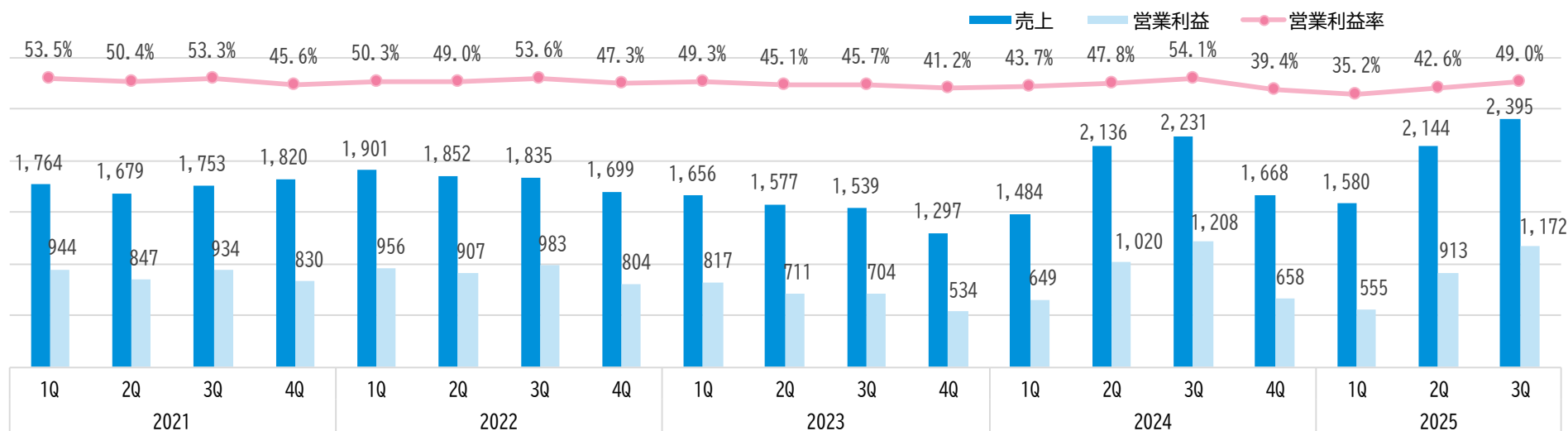
### Ⅲ. セグメント別の状況（光部品・デバイス）

## セグメント別業績(3Q累計)

売上は前年同期比増加したが、製品構成の変化や為替レート変動に伴い営業利益は減益  
 期初の調整は一段落し2Q以降の売上は増加傾向、3Qの売上は8月時点の見通しを上回る伸びとなった

	<前年同期比較>				<前四半期比較>					(単位：百万円)	
	2024年12月期 3Q累計 (1月-9月)	2025年12月期 3Q累計 (1月-9月)	対前年同期 増減	前年同期比	1Q (1月-3月)	2Q (4月-6月)	2025年12月期 3Q (7月-9月)	対前四半期 増減	直前四半期比		
売上高	5,852	6,120	+267	+4.6%	1,580	2,144	2,395	+250	+11.7%		
営業利益	2,878	2,642	△235	△8.2%	555	913	1,172	+259	+28.4%		
営業利益率	49.2%	43.2%	△5.9pt	—	35.2%	42.6%	49.0%	+6.4pt	—		

## 売上高、営業利益、営業利益率（百万円、％）

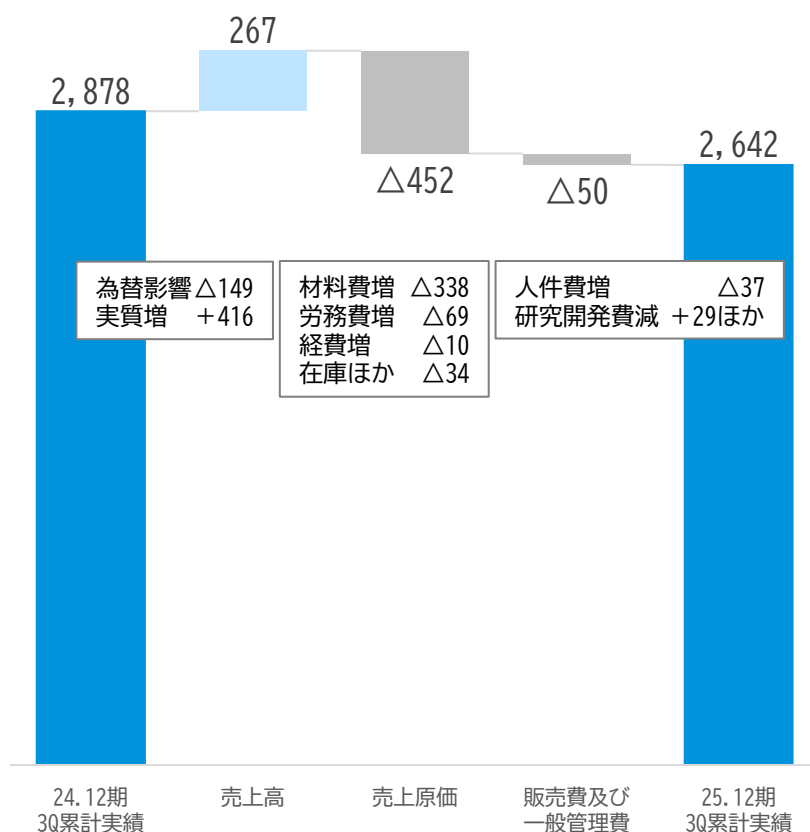


## 営業利益(3Q累計)の増減要因

## 前年同期比

(単位：百万円)

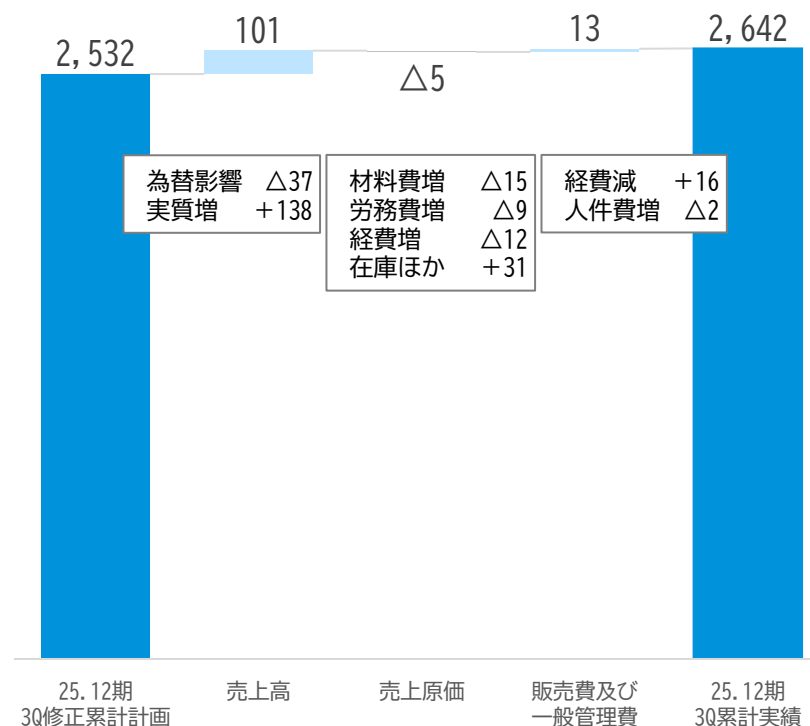
売上はプラスを維持したが、材料費増加等により若干の減益となった



## 計画比

(単位：百万円)

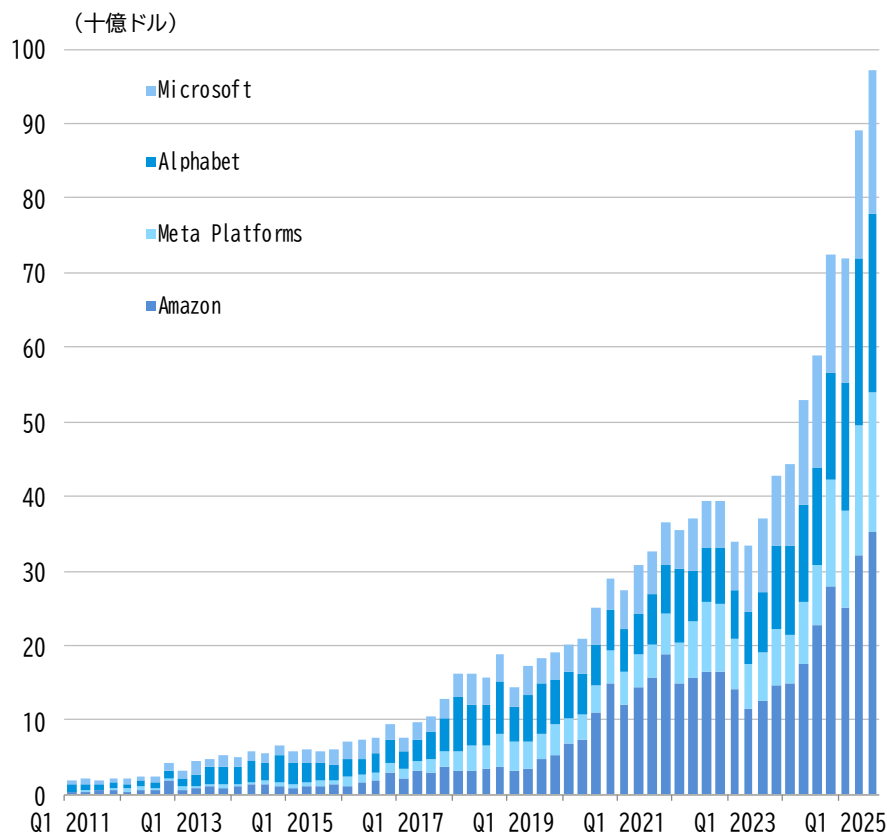
売上・利益とも計画を若干上回る進捗



# 2025年12月期の事業環境

生成AI・DC需要の拡大を背景に活発な投資が続く

## 米国クラウド事業者の設備投資



(出所：会社資料)

## 市場動向

- 一部計画外の追加発注が発生するなど、海底ケーブルプロジェクトへの投資は引き続き好調
- 上半期に発生した一部顧客からの発注調整は終了し、下期の受注は増加傾向
- 多芯化に対応し、小型光アイソレータの販売比率が50%を超える状況
- データセンタ向け光部品の需要は引き続き堅調
- 2028年以降も新規海底ケーブルプロジェクトが続々発表
- 多芯化、マルチコアファイバー化、ワイドバンド化の新製品は2027年に需要顕在化を見込む

# 光部品・デバイス事業の見通し

情報通信容量拡大の流れの中で、一部顧客からの追加受注に対応、8月時点の見通しに対して  
順調な進捗状況

(単位：百万円)

	2024年12月期	2025年12月期（通期）			
	実績	当初予想	修正予想（8月）	対前年増減	前年比
売上高	7,520	8,621	8,537	+1,016	+13.5%
営業利益	3,536	3,839	3,765	+228	+6.5%
営業利益率	47.0%	44.5%	44.1%	△2.9pt	—

## <2025年12月期4Qの見通し>

- ・海底ケーブル新規プロジェクトの件数、距離、通信容量の増加を背景に、欧州、米国、日本の各地域で売り上げは好調に推移
- ・小型化に加えて、モジュール化やマルチコアファイバ化へのサンプル出荷が増加。2027年以降の採用増に向けて準備を進める
- ・レアアース等材料価格の高騰の影響は軽微、売上増加に伴う収益改善を見込む

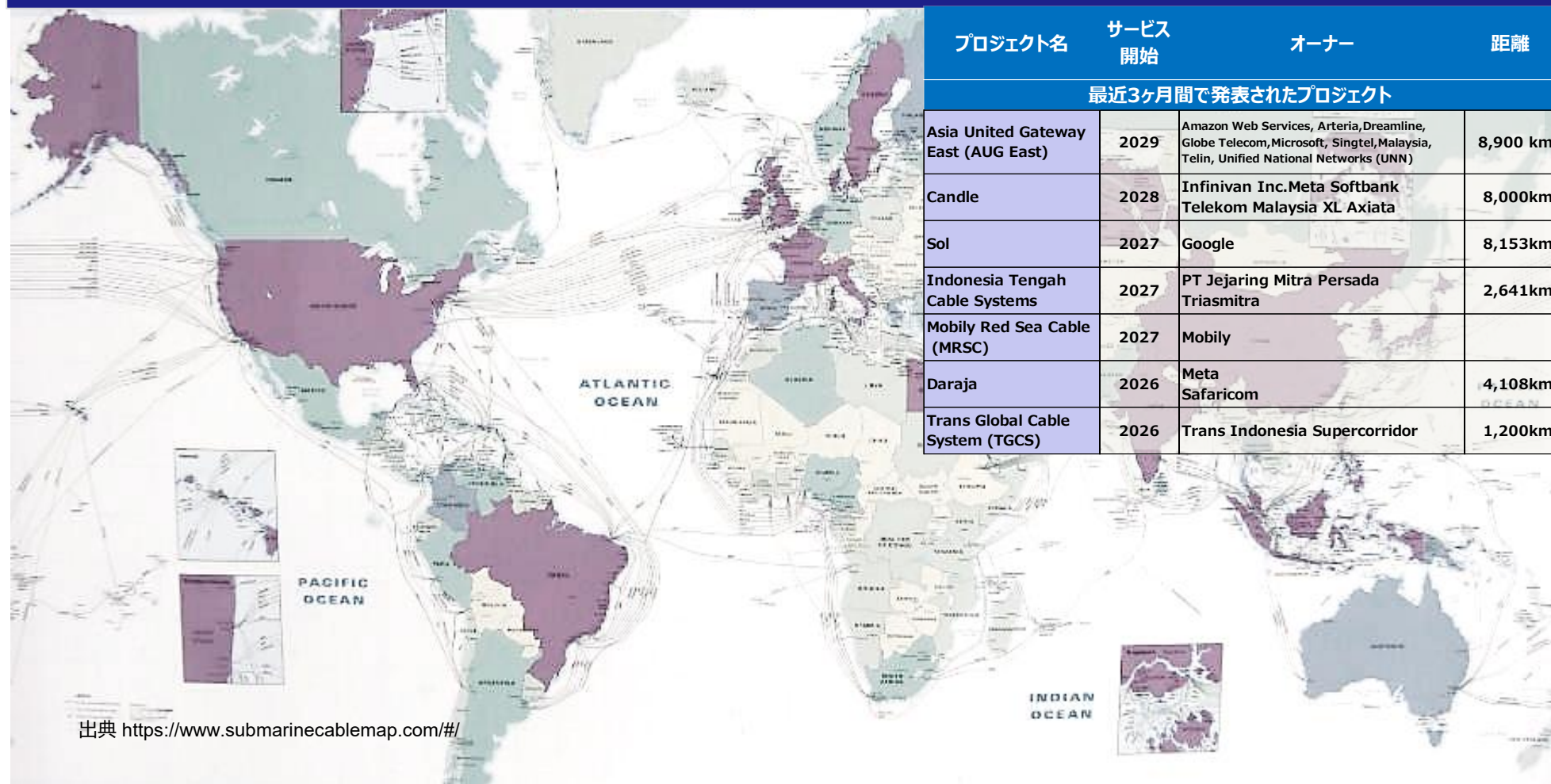
## 当社の状況と収益改善への取り組み

	2025/12期予想（当初コメント）	2025/8月時点の下期見通し	現在の状況と今後の見通し
(1)製品開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 複合品・モジュール品の評価進行、2026年から量産開始予定</li> <li>➢ 小型アイソレータの販売比率上昇、多芯化に向けて採用拡大</li> <li>➢ PLZTを用いた高速光スイッチの開発進行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 開発、ライフテスト完了は2026年の後半の予定。本格売上は2027年からとなる見通し</li> <li>➢ 小型アイソレータの生産増強</li> <li>➢ 米国での開発リソース強化、開発スピード改善</li> <li>➢ 衛星通信用などに高信頼性光デバイスの拡販及び引き合いに対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ デザインサンプルの評価が進行、2027年量産化に向けてライフテスト用サンプルを出荷</li> <li>➢ 小型アイソレータの販売比率増加、スリランカでの人員を増強</li> <li>➢ 海外展示会への参加等、衛星通信用デバイスなどのマーケティングを強化</li> </ul>
(2)生産性他	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 半自動装置2号機を5月から立ち上げ、年度末に対象工程の80%を自動化</li> <li>➢ データセンタ向け光部品の生産能力増強、売上増加</li> <li>➢ 高純度石英ガラス（SSG®）製品の売上増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ スリランカ工場での半自動装置で生産拡大、生産可能アイテムを拡大</li> <li>➢ 今期のFR製品の売上は3倍強に増加の見通し</li> <li>➢ 来期以降の生産能力拡大に向けて引き続き準備を進める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 対象工程の70%程度の自動化が進捗</li> <li>➢ 設備増強により生産能力大幅増強、FR製品の3Q累計売上は前年比約3倍に増加。歩留まり改善により、さらに生産能力増強を進める</li> <li>➢ 本社工場での焼結炉増設エリア拡大に着手</li> </ul>

# 新規敷設が続く海底ケーブルネットワーク

※図中の各線が海底ケーブル

## 長距離海底ケーブルシステムの全体図



※出所) TeleGeography 「Submarine Cable Map」

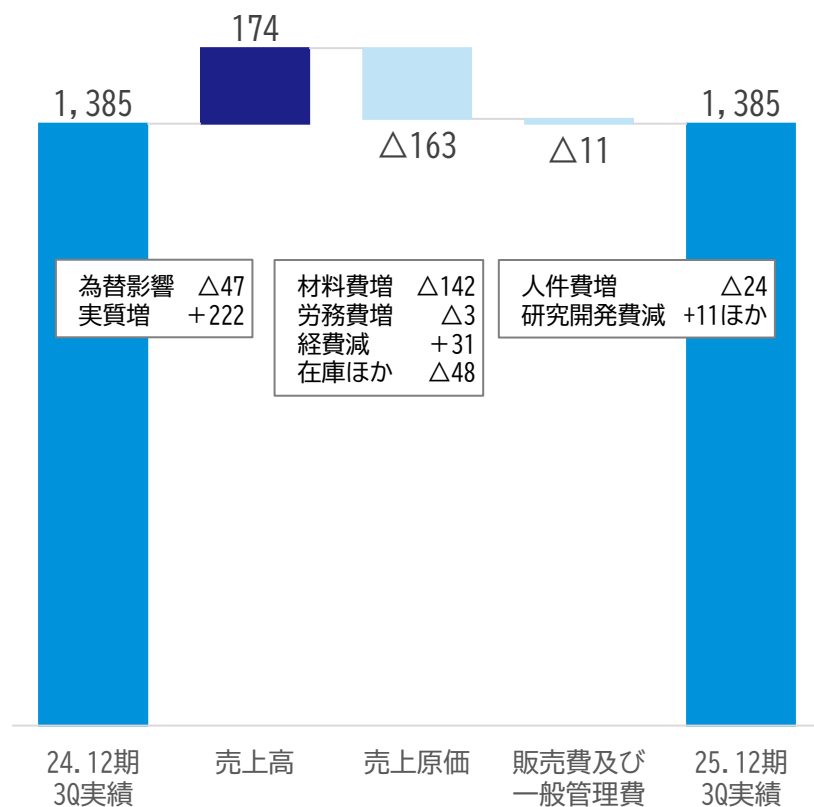
※プロジェクトの更新情報は公表データから推定したものです。

## IV. 参考情報

# 営業利益 3Q（7～9月）の増減要因

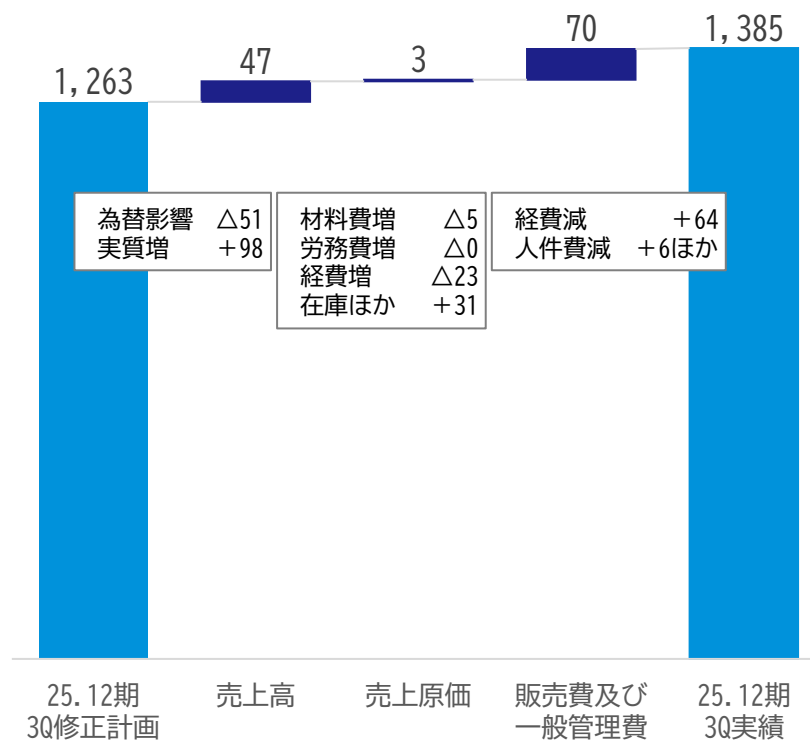
## 前年同期比

（単位：百万円）



## 計画比

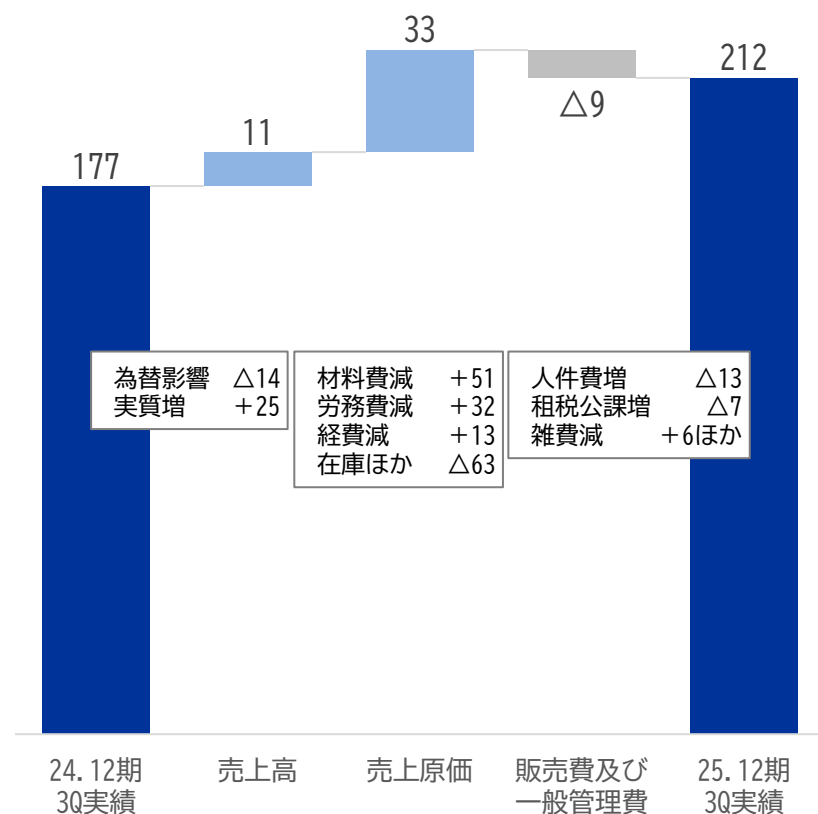
（単位：百万円）



# 営業利益 3Q（7～9月）の増減要因

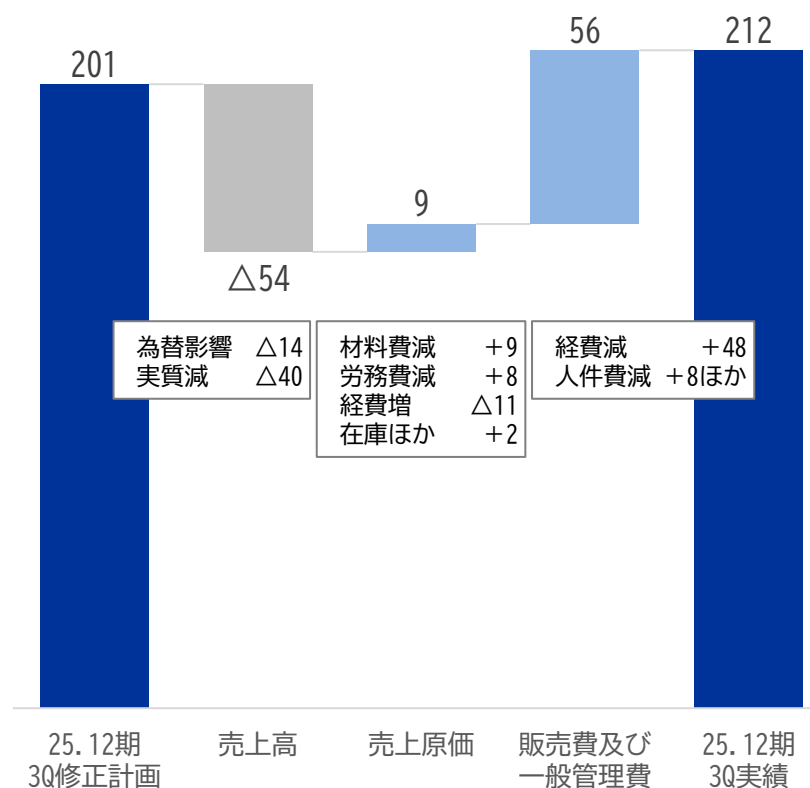
## 前年同期比

（単位：百万円）



## 計画比

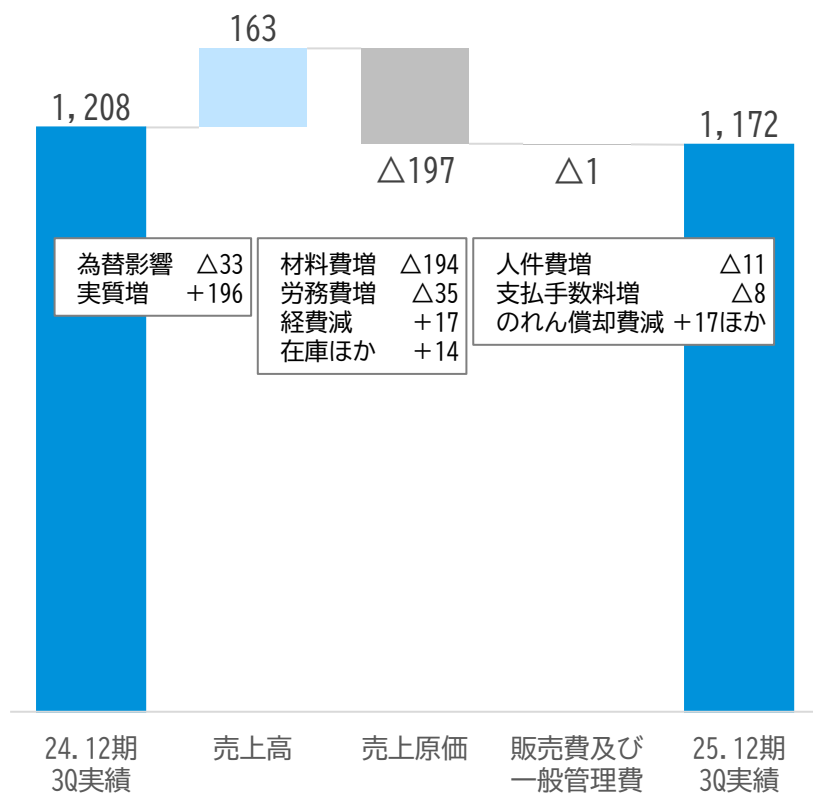
（単位：百万円）



# 営業利益 3Q（7～9月）の増減要因

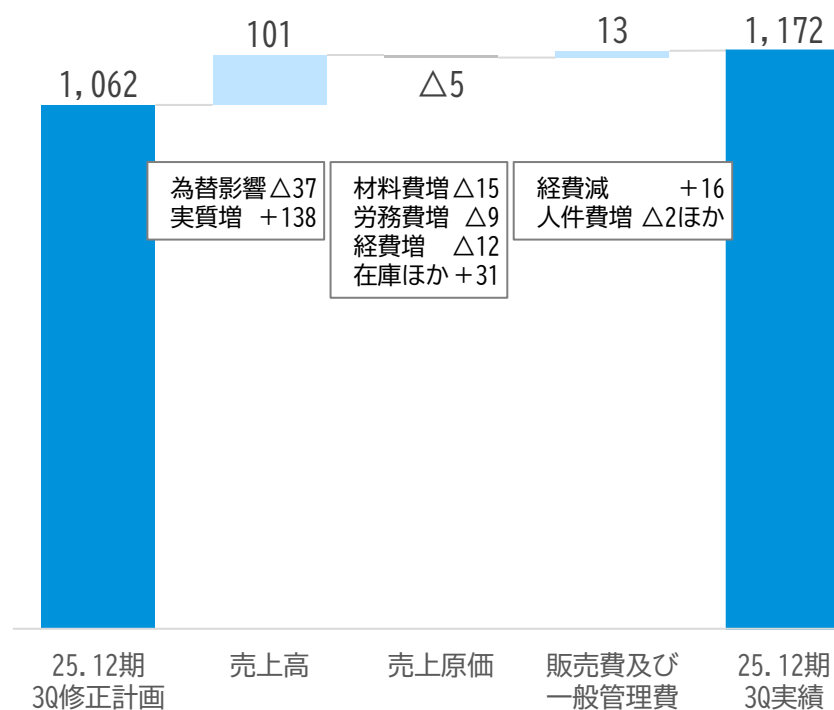
## 前年同期比

（単位：百万円）



## 計画比

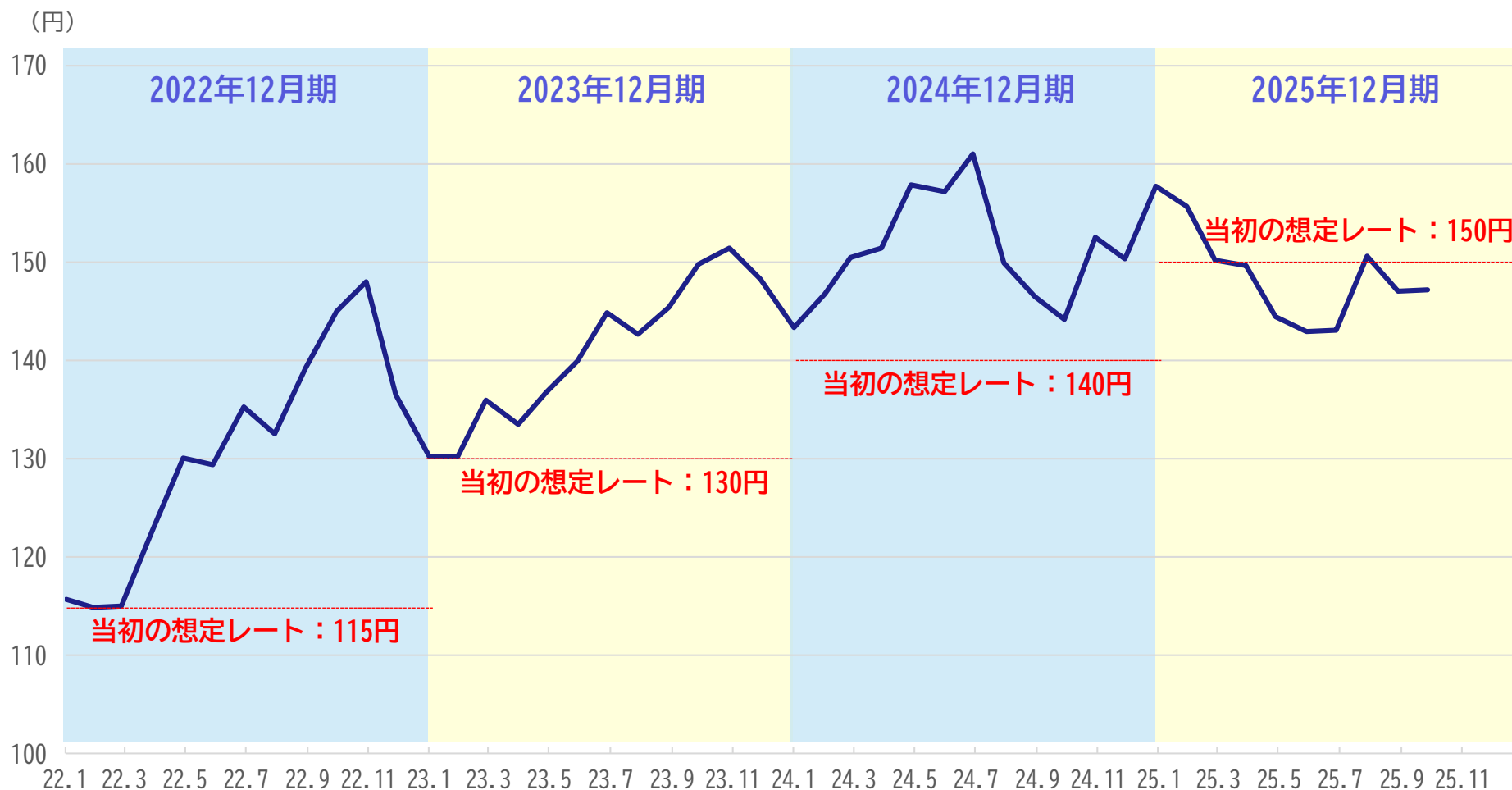
（単位：百万円）



# 2025年12月期(3Q)の事業環境

当四半期累計期間における期中平均レートは、148.09円/USD、前期末158.17円/USDから円高傾向

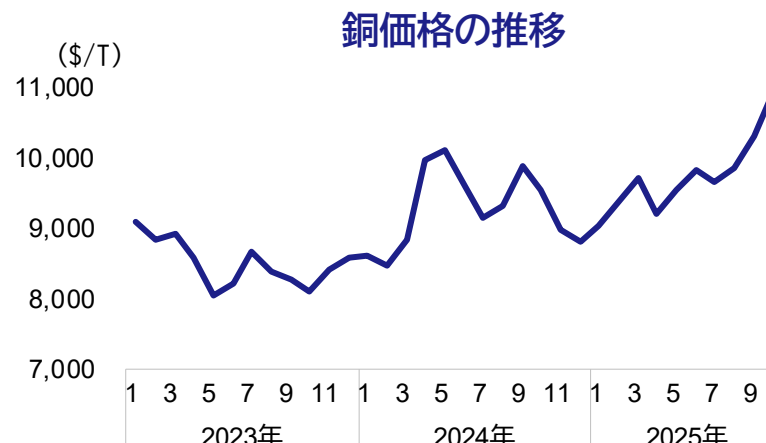
USD/JPYトレンドグラフ



# 外部環境 - 非鉄金属相場の動向

非鉄金属の市場価格は上昇の兆し、原則3か月後に価格転嫁

## 非鉄金属相場（LME）の推移



この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。  
それら将来の計画や予想数値などは、入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。実際の業績などは、様々な条件・要素によりこの計画や予想数値とは異なる結果になることがあります。この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

---

湖北工業株式会社 広報・IR部

E-mail [ir@kohokukogyo.co.jp](mailto:ir@kohokukogyo.co.jp)

TEL 0749(85)3211 FAX 0749(85)3217